

日刊 勤労千葉

85. 11. 30

No. 2104

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

不当家宅搜索への抗議声明

十一月二十九日午後六時四〇分、警視庁は「二十九日早朝に発生したゲリラ事件に
関連した凶器準備集合、公務執行妨害、現住建造物等放火、火災びんの使用等の
処罰に関する法律違反容疑」と称して、動力車会館に大量の機動隊を導入し、全
く違法・不当極まる家宅搜索を強行した。

これはまさに、われわれの十一・二八、二九ストライキが整然と闘いぬかれ、
圧倒的に成功したことに迫いつめられた中曾根内閣が、国鉄分割・民営化攻撃の
本質が勤労千葉の闘いによって暴露されることを恐れて打ち出しきた凶暴なス
ト破壊、組織破壊攻撃である。断じて許すことはできない。

われわれは「国鉄分割・民営化阻止、十万人首切り粉碎」をかかげ、権力・当
局の叩争圧殺攻撃を粉碎し整然と決起し、断固ストライキを貫徹したのである。
ストライキは、労働者の最も基本的な権利であり、団体交渉を拒否・否定・形骸
化する国鉄当局に対し、ストライキで闘うことは当然である。

勤労「本部」革マルの裏切りは論外としても、国鉄労働運動総体の全く否定す
べき屈服的状況の中で、国鉄労働者の首が切られていくということに対し、勤労
千葉一、一〇〇名の労働者は、文字通り全国国鉄労働者の怒りの最先頭に立ったの
である。首を掛け、国鉄労働運動の死活をかけて決起したわれわれの闘いは、恥場
で苦闘する国労組合員の心をとらえ、共同の闘いを実現し、初日において、総計
一三五本の運休をからとるなど、総武線、首都圏をゆるがし、当局・中曾根の心胆
を寒からしめる大成果をからとった。

今回の家宅搜索は、このストライキの成果を打ち消し、反動的フレームアッス
で勤労千葉の社会的孤立化をはからんとする許しがたい暴挙である。すなわち、
一、勤労千葉は、当局の分割・民営化、十万人首切り合理化の撤回を求めると
もに、合理化にともない発生する安全問題をはじめとする労働者の死活にかかわ
る問題について団体交渉を拒否する国鉄当局に対しストライキで闘いぬいたこと。
二、従って、分割・民営化に反対する他の団体や個人がいかなる手段でその意志
表示をしたとしても、それは、われわれとは全く別の問題であること。いわんや
凶器準備集合や火災びん等がわれわれと無関係であることを百も承知で家宅搜索
を行っていること。

三、実際、不当な家宅搜索における押収品が「ゲリラ事件」を口実としながら実
は全てストライキ関係のビラ・指令書であったこと、などを見ればそれは明々白
々である。

わが勤労千葉は、反動キャンペーンのためにするかがる政治的弾圧を徹底糾弾
するとともに、いかなる悪質な反動攻撃にも屈することなく、労働運動の原則
を堅持し、オニ波ストの偉大な成果にふまえ、さらにオニ波・オニ波と勝利する
まで闘いぬくものである。

右声明する。

一九八五年十一月三〇日

国鉄千葉動力車労働組合

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！